

初めまして。医師5年目の窪田淳志と申します。初期研修は諏訪赤十字病院と信州大学医学部附属病院でお世話になり、3年前から佐久総合病院グループで専門医の研修を受けています。将来は総合診療科や家庭医の専門の道へ進もうと考えています。川上村では2022年4月から外来診療をさせていただいています。



長野へは、父方の祖父が塩田出身だったため、その関係で中学の頃に家族で大阪から引っ越してきました。高校は上田高校を卒業し、大学は関西方面の大学を卒業し、研修と将来的な医療はお世話になった地元でやりたいと思い長野に戻ってきました。外来はもちろんですが、訪問診療もとても興味深く、自分が医師をめざした初心を思い出させてくれる場面も多々あり、「ヒトが生きる」ということを考えることが多くなりました。



南相木ダム

川上村診療所で水曜日の午後に外来をさせてもらっていますが、川上の診療では人のつながりをより感じるが多くなりました。農業にはこれまで縁がなく経験もないのに、こんなことを思う

のは変なのですが、村の健康や医療は農業に似ているのではないかと感じる事が多いです。村での診療は川上村の方々を一人ひとり診ているだけでなく、その周囲、延いては村全体を診ているような思いで取り組まなければならない、そのためには歴史や時間の流れも重要な要素ではないかと感じました。またその逆に、その個人を診るには村全体を診なければ分からないことが多々あることも感じるようになりました。都会や街で全くそういうことがないかという、そんなことはないと思うのですが、川上村での診療はより濃くその関係性を感じる



夏の川上村

きっかけになったと思います。村、時の流れ、人…その中で働けていることを身に沁み感じながら、日々診療に勤しんでいこうと思います。

まだまだ精進が足らず、未熟者ではありますが、生温かく見守っていただき、時には頼っていただけるようになれば嬉しい限りです。

最後に僕の好きな詩人の作品から、一部分だけですがご紹介したいと思います。

遠い国は おぼろだが 宇宙は鼻の先
 なんとこの恩寵 人は 死ぬる
 そしてという 接続詞だけを 残して



北相木の氷瀑